

証券コード2874

横浜冷凍株式会社

個人投資家説明会

2024年9月27日

人とおいしさのあいだに

おいしさは、ココロを満たす
おいしさは、カラダをつくる
すべての人を幸せにするみなもと

食により添い、食を豊かにする
かかせない存在として、
私たちはこれからもずっと
そのおいしさを守り続けていきます

冷蔵倉庫と食品販売
ふたつの事業で日本へ、世界へ
人のために食をつなぐ使命を果たします

生産地から食卓まで、
食にかかわる人たちの
ほほえみもつないでいく

人とおいしさのあいだに
ヨコレイ



本日の目次

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

1

ヨコレイの概要

YOKOREI OVERVIEW

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

創業以来 **76** 年間

日本の食の安全・安心をつないできました

『ヨコレイ』の名で親しんでいただいている横浜冷凍株式会社は1948年創業

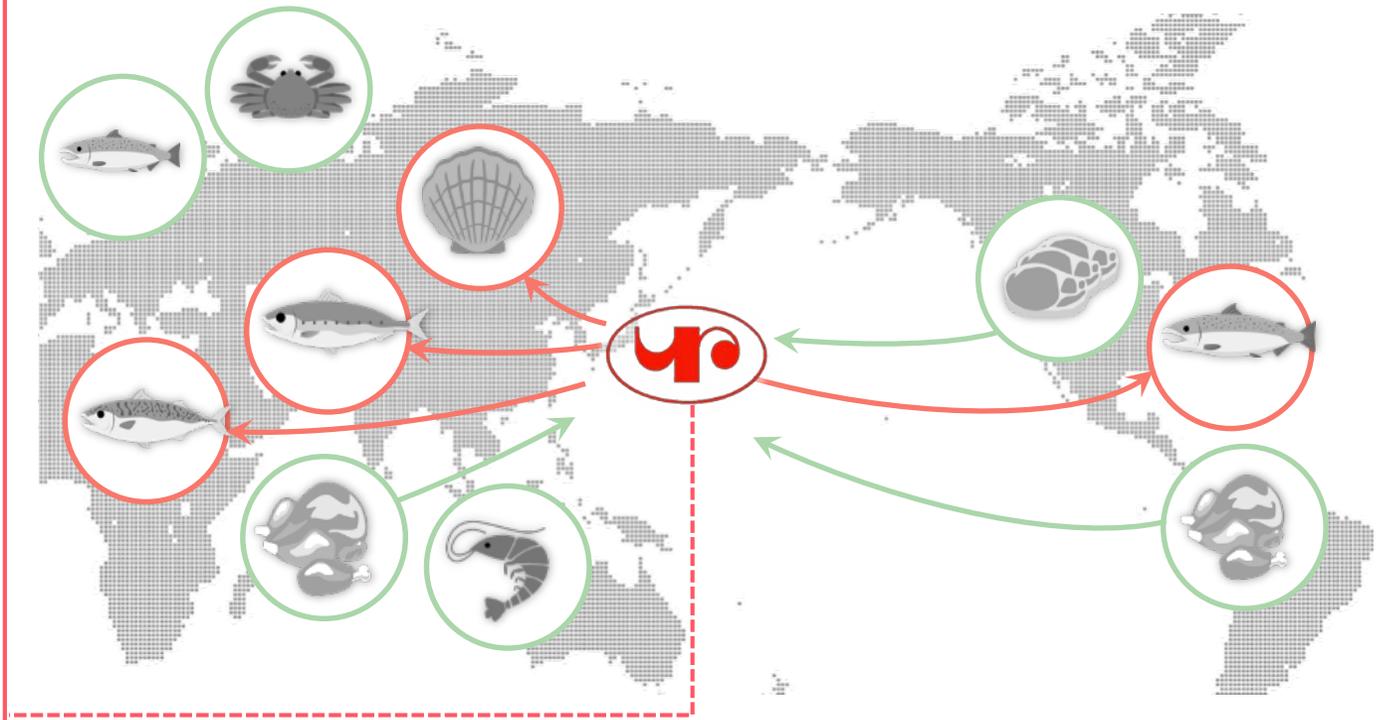
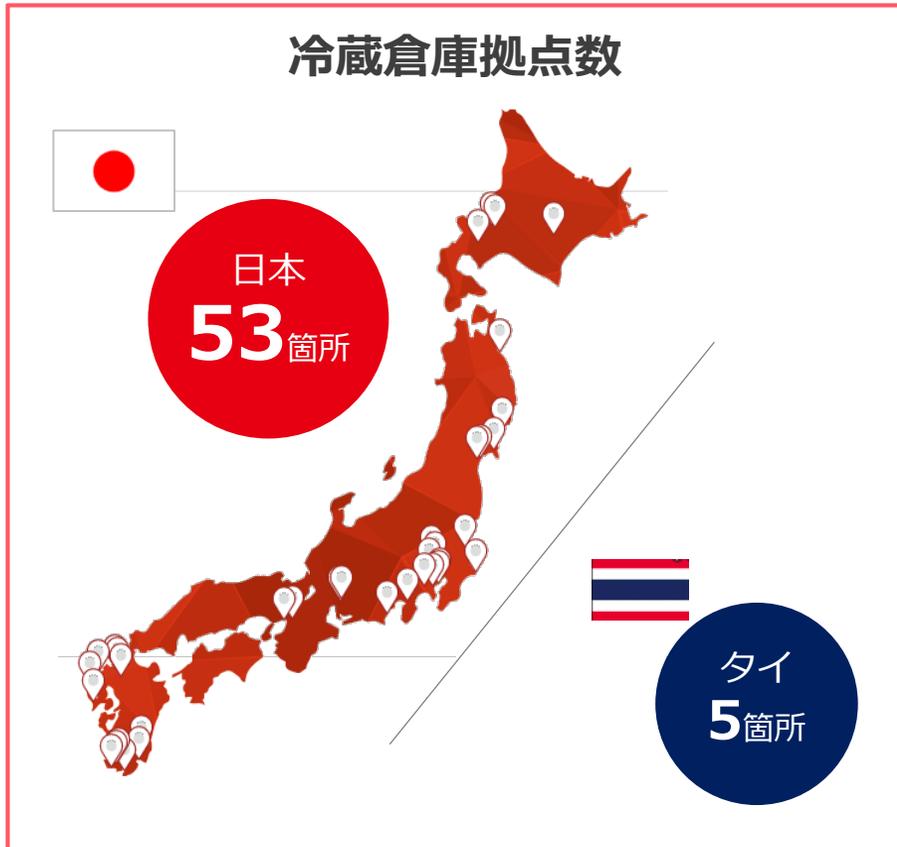
戦後の食料難の時に、貴重なたんぱく源となる魚やエビなどの水産物を、水揚げされた横浜から全国の卸売事業者に販売する事業をスタート。また、新鮮な水産物を保管するために必須となる冷蔵倉庫の事業も、ほぼ同時に開始



全国、全世界の産地から食材を仕入れ国内外へ流通

横浜から始まった事業は日本全国、そして世界へ展開収容能力100万トン超

国内トップクラス規模へ成長



冷蔵倉庫事業

水産品・農畜産品などの冷蔵・冷凍保管、凍結それに付帯する事業（利用運送・通関等）

特長

- 業界トップクラスの収容能力と自然冷媒導入率
- 積極的な新規拠点の設立により収容能力拡大
- 当社独自の「ヨコレイ品質」を構築



食品販売事業

水産品及び農畜産品の販売並びに輸出入



特長

- 多様なニーズに対応した**食材調達力**
- **産地・消費地に営業所を設置**し、安定供給
- 水産事業・畜産事業・農産事業の3事業体制

①水産事業

輸 入

北欧のサーモントラウト、東南アジア・南米のエビ等、品質の高い食品を世界各地から調達し、国内の加工メーカーや問屋に販売

国内仕入

日本各地で水揚げされたサバ、ホタテ、イワシ等の水産品を日本全国、さらに海外にも販売

三国間貿易

当社が仲介者となり、海外で仕入れた水産品を第三国へ輸出

②畜産事業

ポーク・チキン・ビーフ等の主要畜産品を北米・ブラジル・豪州、タイ等から調達し、加工原料としてメーカーへ販売する他、問屋や加工業者を通じて量販店や飲食店に販売

③農産事業

北海道・十勝に拠点を構え、道内の農産品をメーカーをはじめ全国各地の事業者へ販売

食の安全・安心を生む **「ヨコレイ品質」**

長年培ってきた経験と人の手により実現する「ヨコレイ品質」で安全・安心な「食のインフラ」を提供し続けます



冷蔵倉庫事業

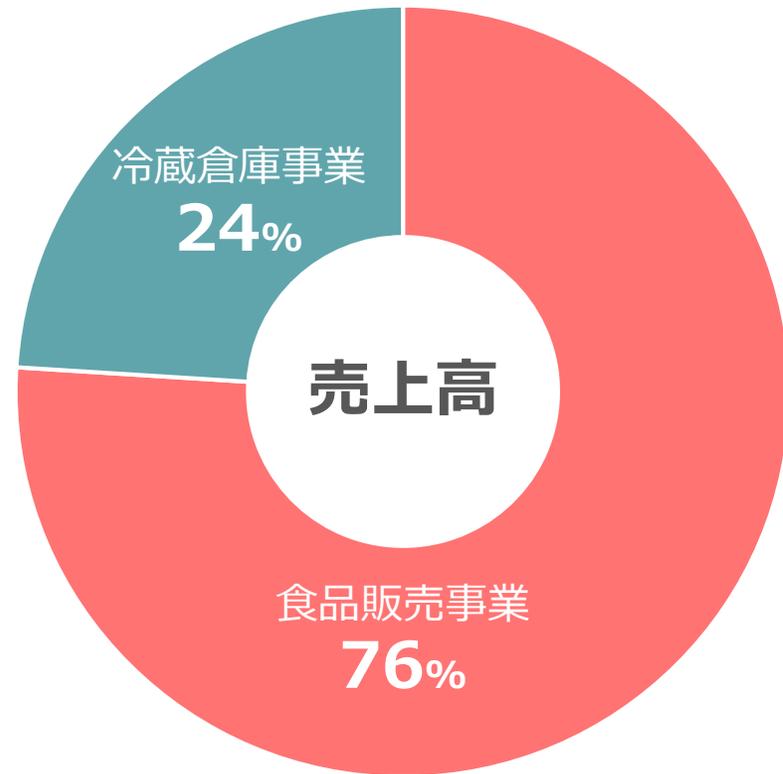
- 冷風による冷却むら・冷凍焼けが起こりにくい
「自然対流冷却方式」を大手で唯一採用
- 商品知識とノウハウ、高い技術力を蓄積、継承し、お預かりした貨物を最適に保管
- 全国を8つの地域（ブロック）に分け、各地域のニーズに的確に応えることができる体制の構築

食品販売事業

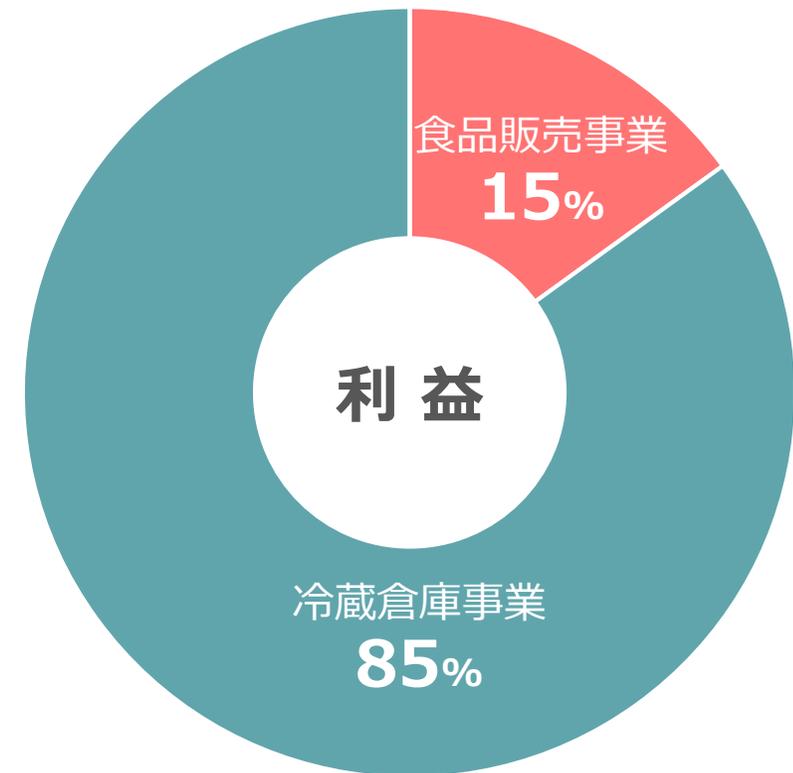
- 食卓に安全・安心をお届けする品質管理
- 国内各地の自社拠点で、**輸入と輸出・保管・仕分・凍結・販売などを一元管理**し、トレーサビリティを確保

2023年9月期

売上高 **1,338**億円



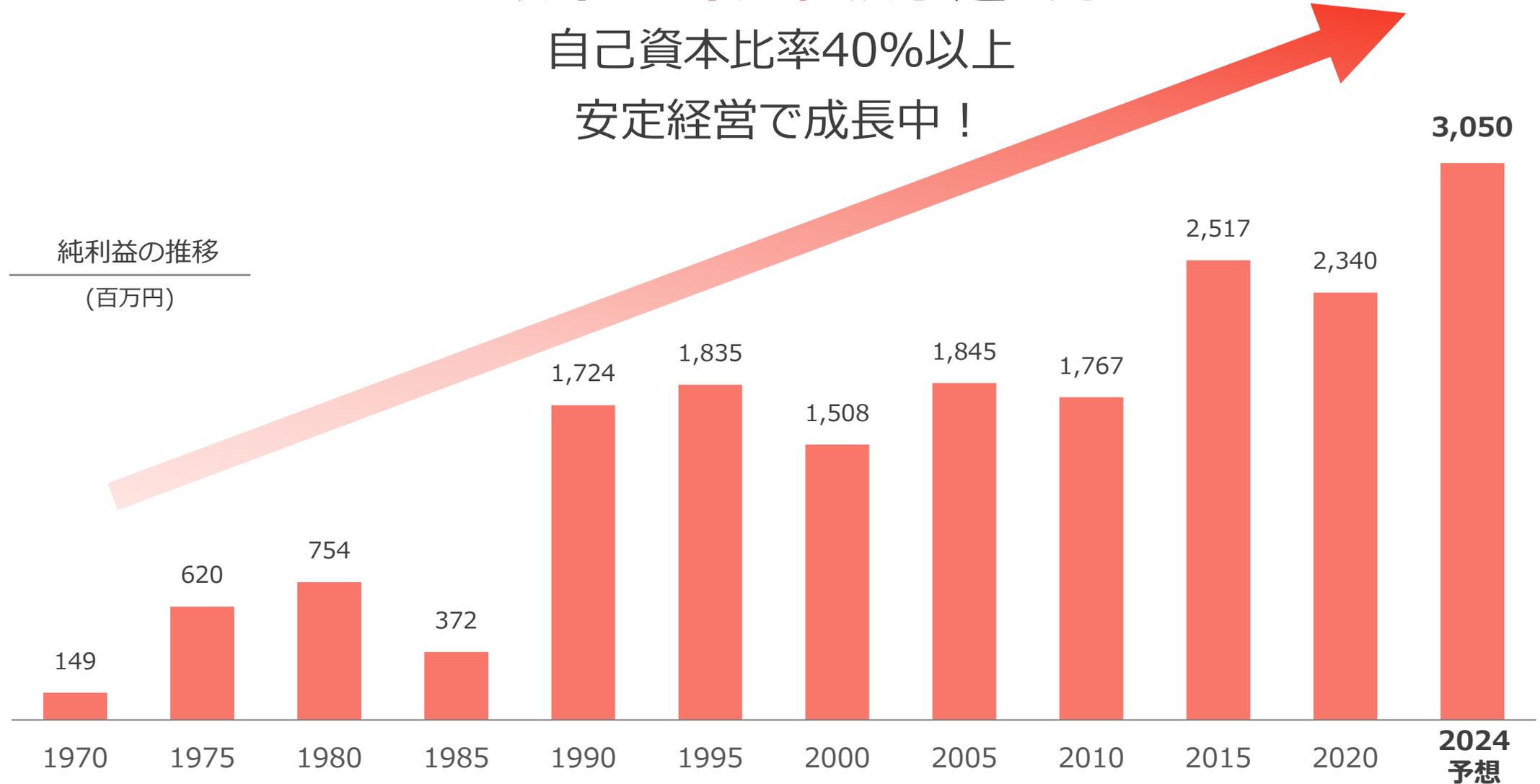
営業利益 **37**億円



上場以来**62年連続**黒字達成中！

自己資本比率40%以上

安定経営で成長中！



環境配慮No.1を強みとした低温物流事業の更なる強化と持続可能な食と地域づくりの実践を強みにした事業展開で持続可能な社会の実現と企業価値向上の両立を目指します。

新・中期経営計画（第Ⅱ期）「繋ぐ力」

2024.9月期～2026.9月期

重点施策

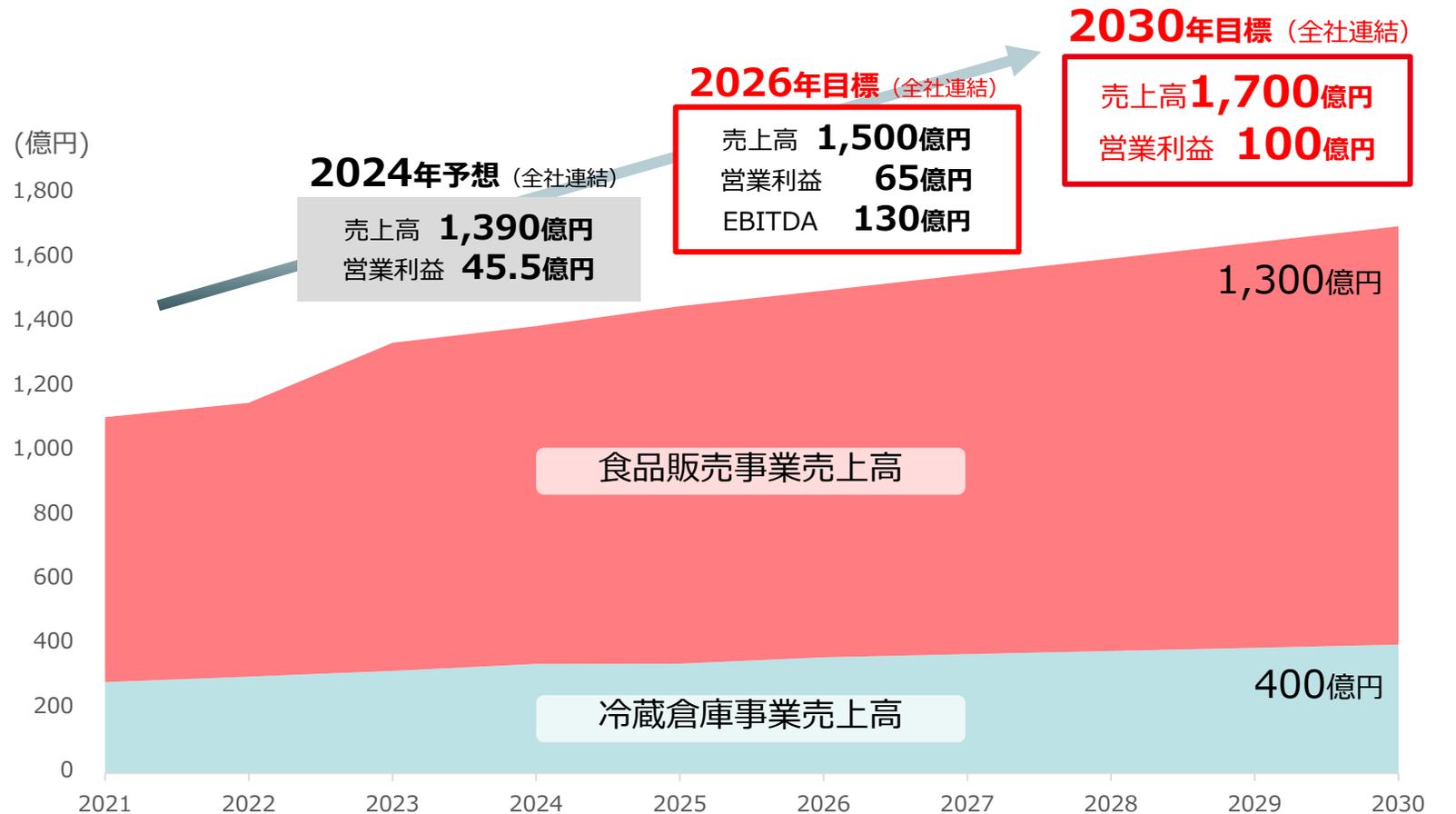
- 1.収益性向上のための構造改革
- 2.事業品*1・全社取組商材*2の販売拡大
- 3.独自商品と販売網の開発
- 4.海外における販路拡大

*1 投資先商材・自社生産品
(サーモン・凍結加工品・養鰻 等)

*2 調達力を活かした一括仕入商材 (サバ・鰻 等)

重点施策

- 1.環境配慮型物流センターの拡充
- 2.スマートコールドサービスの実現
～次世代型冷蔵倉庫の新設～
- 3.ASEANグローバル展開



動画をご覧ください

<https://www.yokorei.co.jp/about/movie/>



2

冷蔵倉庫事業

REFRIGERATED WAREHOUSING BUSINESS

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

冷蔵倉庫は、電気、水道、ガス、電話、と同じように生活を支える「インフラ」

冷蔵倉庫は、世界や日本各地から集まった食品を必要な時に必要な量を供給するための保管場所



業界の課題1

施設の老朽化により、施設の建て替えが必要

- ✓ 多額の建て替え建設コスト
- ✓ 建て替え用地不足

築40年超の冷蔵倉庫の割合

日本国内
34%

※2022年6月 日本冷蔵倉庫協会資料より

業界の課題2

フロンガス製造終了による設備の切り替えが必要

- ✓ 冷媒切替コストは1棟あたり数億円

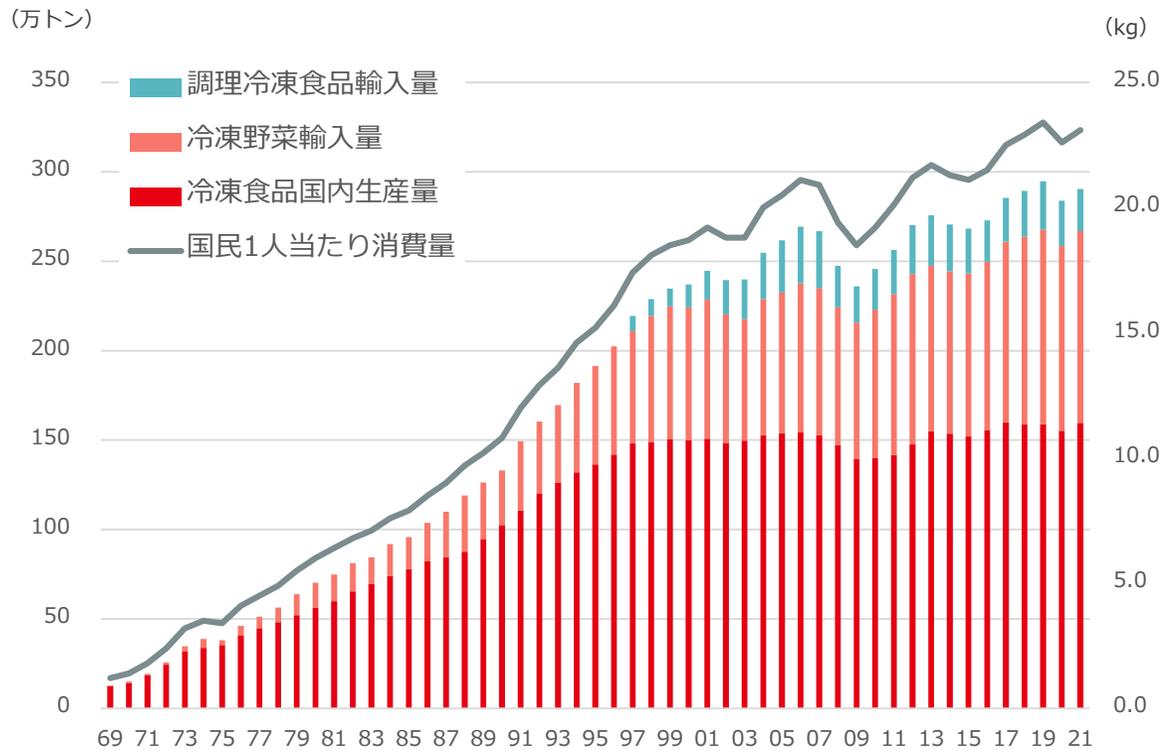
2020年に
従来型
フロンガスの
製造終了



莫大な資金が必要

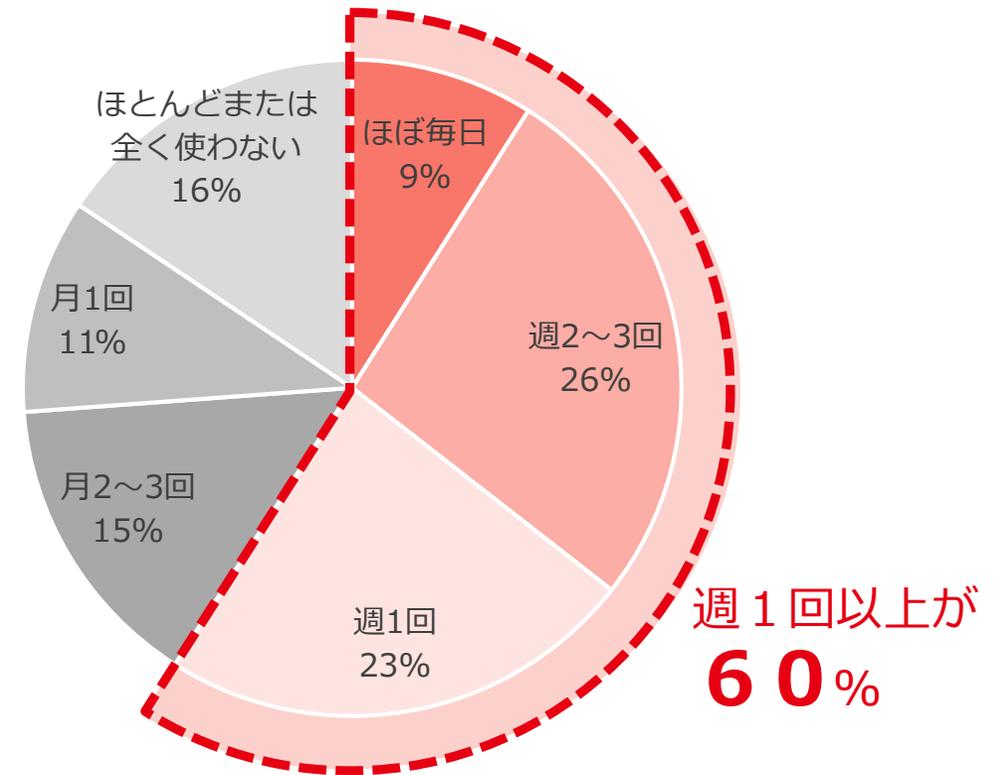
冷凍食品の消費量は、2015年以降順調に増加

冷凍食品国内消費量の推移



※一般社団法人 日本冷凍食品協会 統計資料
冷凍食品国内消費量の推移より

冷凍食品の利用頻度(2021年3月)

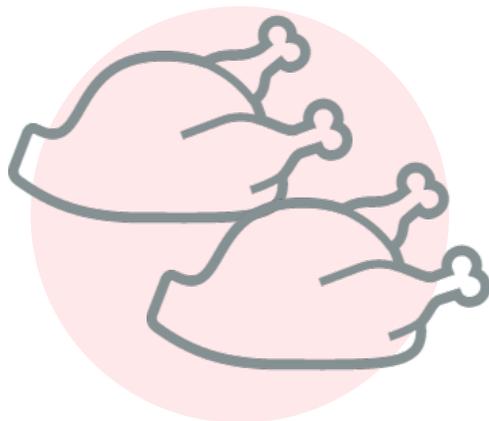


※日本冷凍食品協会「『冷凍食品の利用状況』実態調査」P.14図3を基にグラフを作成。
調査対象は男性のみ

より広いスペースと、貨物の種類や状態にあわせての適切な管理体制も重要になってくる

原料貨物

例 | ブラジル産鶏もも肉 12kg



冷凍食品

鶏のからあげ 12kg





国内



収容能力
約 **100** 万トン



国内シェア

- 1位 ニチレイグループ 約8.4%
- 2位 ヨコレイ 約5.3%**
- 3位 マルハグループ 約3.5%

※運輸局登録の届出ベース(2023年7月1日現在)



タイ



収容能力
約 **10** 万トン



ヨコレイ冷蔵倉庫の拠点拡大①

全国の冷蔵倉庫拠点

現在
53カ所

北海道・東北 11カ所
圏央 7カ所
京浜 7カ所
中京・東海 6カ所
阪神 6カ所
九州 16カ所

業界でも
ハイペースな
拠点拡大

2020→2030

新設目標10拠点以上

2021年



2021年2月
福岡ISLANDCITY LC



2021年7月
気仙沼SS II

LC: 物流センター
SS: ソーティングスポット
(鮮魚を選別・箱詰め・凍結する機能を持った冷凍冷蔵倉庫)

2023年



2023年3月
ちばりサーチパークLC

2024年



2024年2月
恵庭スマートLC



2024年2月
夢洲第二LC



2024年4月
箱崎ファシリティLC

2025年



2025年春
岡山LC
(仮称)



2025年春
十勝第四LC
(仮称)

2026年



2025年夏
長岡LC
(仮称)

ベトナムにおける子会社設立と冷蔵倉庫新設

- ベトナムのロンアン省ベンルック県のフーアンタン工業団地（PAT）に当社100%出資の現地法人を設立
- 2023年3月15日に、同工業団地(PAT)内に冷蔵倉庫着工(2025年1月竣工予定)

ホーチミン市と、ベトナム南西部のメコンデルタ地区を繋ぐ物流拠点



▶▶▶ ベトナムで加工した水産品の保管、販売、流通、また、日本国内で水揚げされた輸出品の中継場所として、**冷蔵倉庫事業と食品販売事業とのシナジー効果も期待**

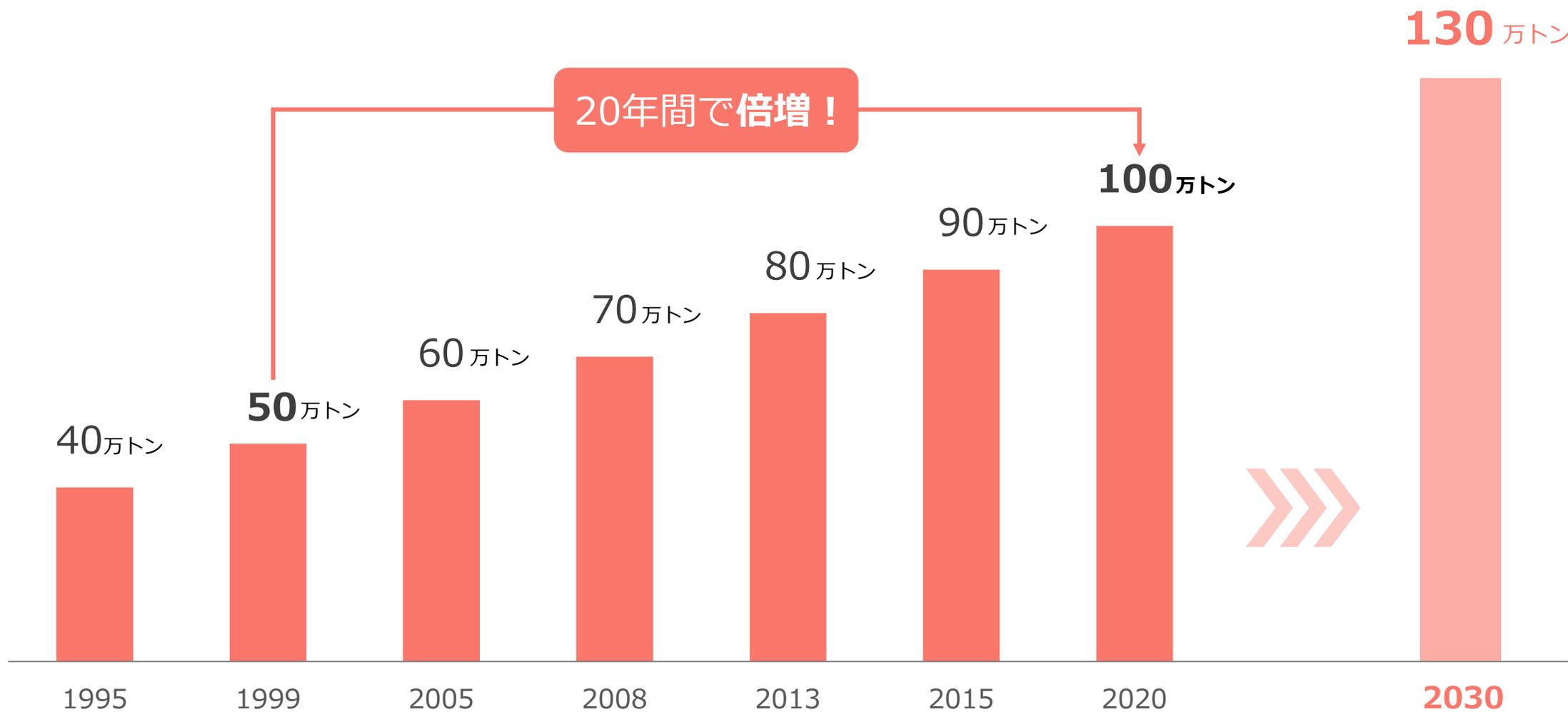
ベトナム現地法人概要

会社名	日本語：ベトナムヨコレイ有限会社
代表者	代表取締役社長 関 晋也
設立	2023年3月3日
株主	横浜冷凍株式会社（100%出資）
事業内容	冷蔵倉庫業

ベトナム冷蔵倉庫概要

収容能力	約45,000トン
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> ・当社初の自動ラック設備 ・大容量の太陽光発電設備 ・電動式移動ラック設備 ・省エネ型自然冷媒冷凍機
工期	2023年3月～2025年1月予定

事業規模**拡大中**！



3タイプの冷蔵倉庫で多種多様な食品の保管・物流ニーズに対応



港湾型

コンテナ船が着岸できる主要貿易港に位置する。製品や食品原材料の輸入貨物を中心に取扱い、通関サービスも提供。

ヨコレイの冷蔵倉庫

物流型

主要幹線道路のインターチェンジ等に位置する。タイムリーな供給が求められるコンビニや量販店、外食チェーン等の製品を保管・配送。

伸びている！

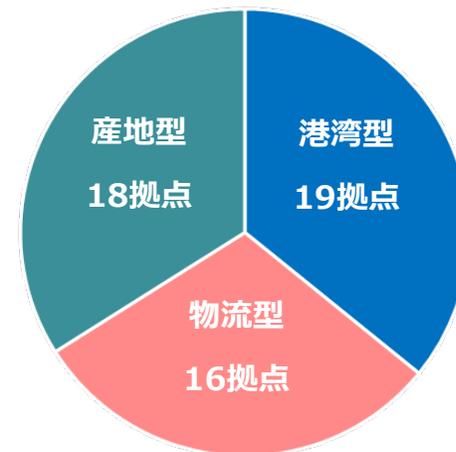


産地型

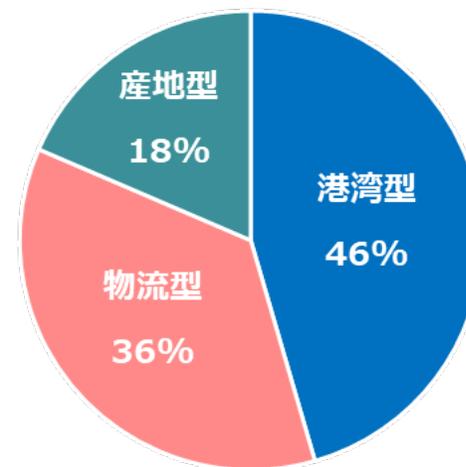
全国の主要な漁港や農産地に位置する。水揚げされた水産物や収穫された農産物を最適な温度帯で保管。



拠点数別比率



収容能力別比率



多種多様な取引先基盤

主な取引先



メーカー、商社、問屋など

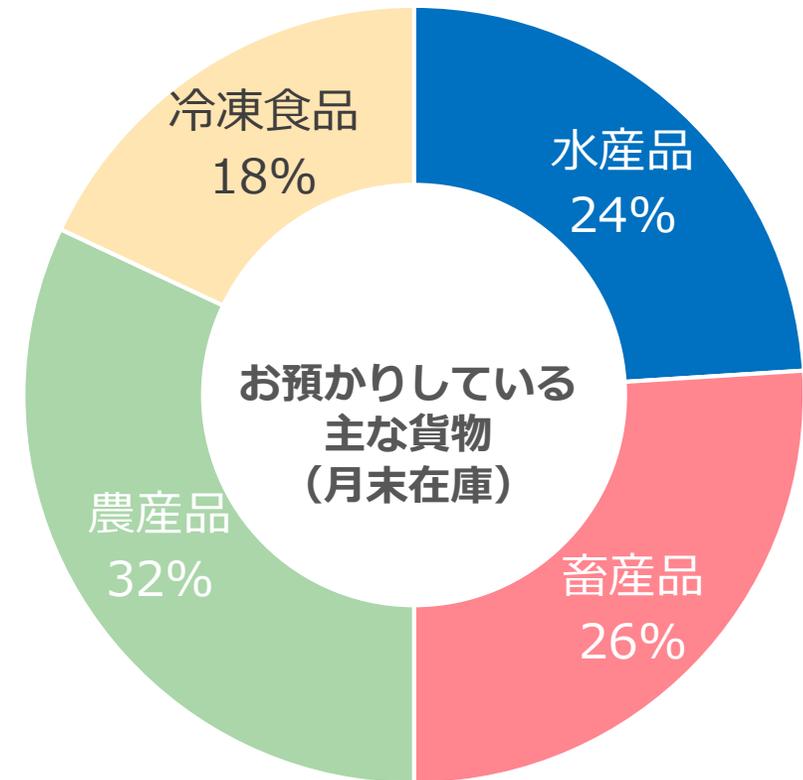
取引先数



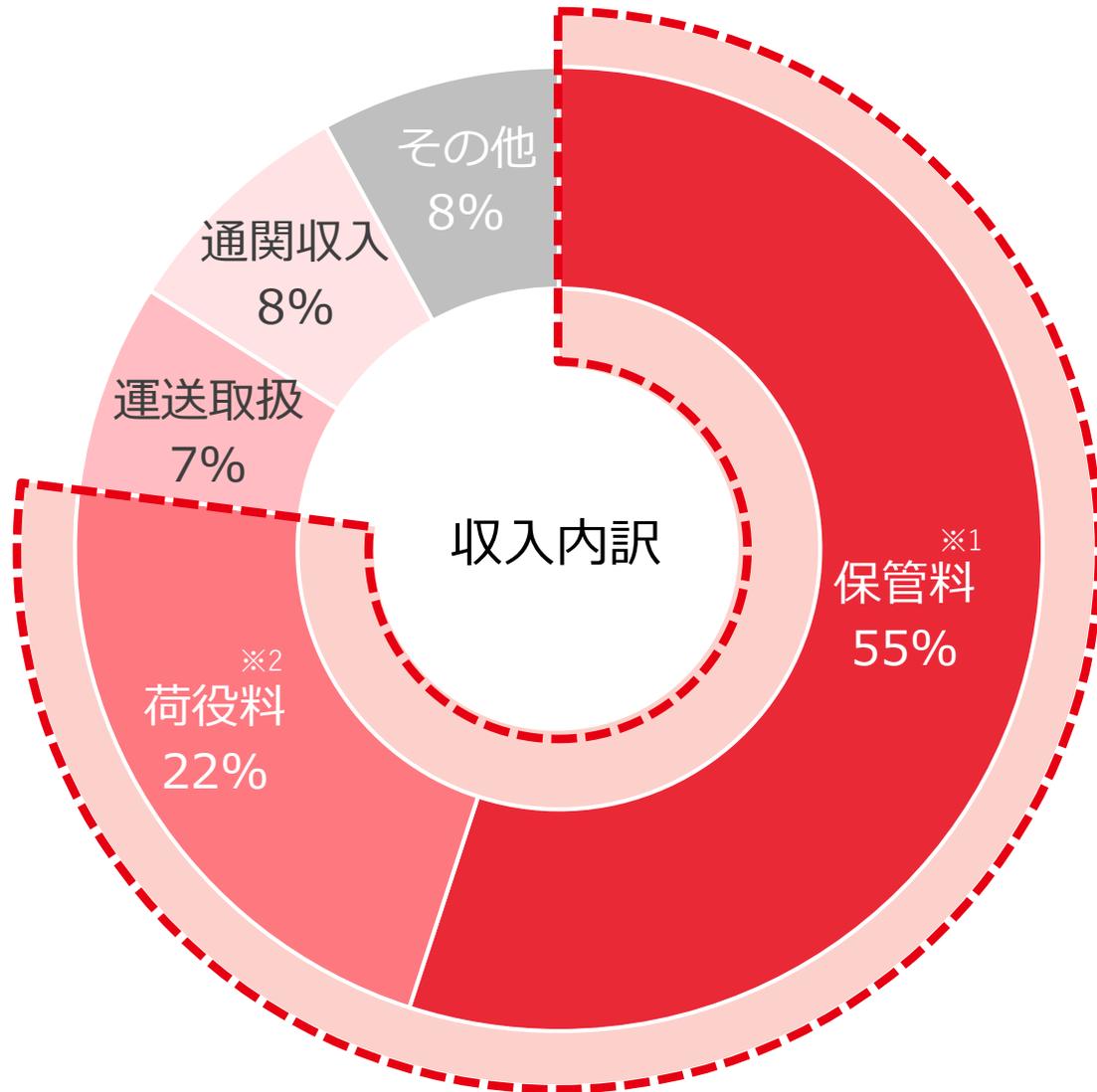
3,000社以上

最も取引が多いお客様でも売上の約5%

常に安定した需要がある食品が主体



※2023年9月期決算数値より



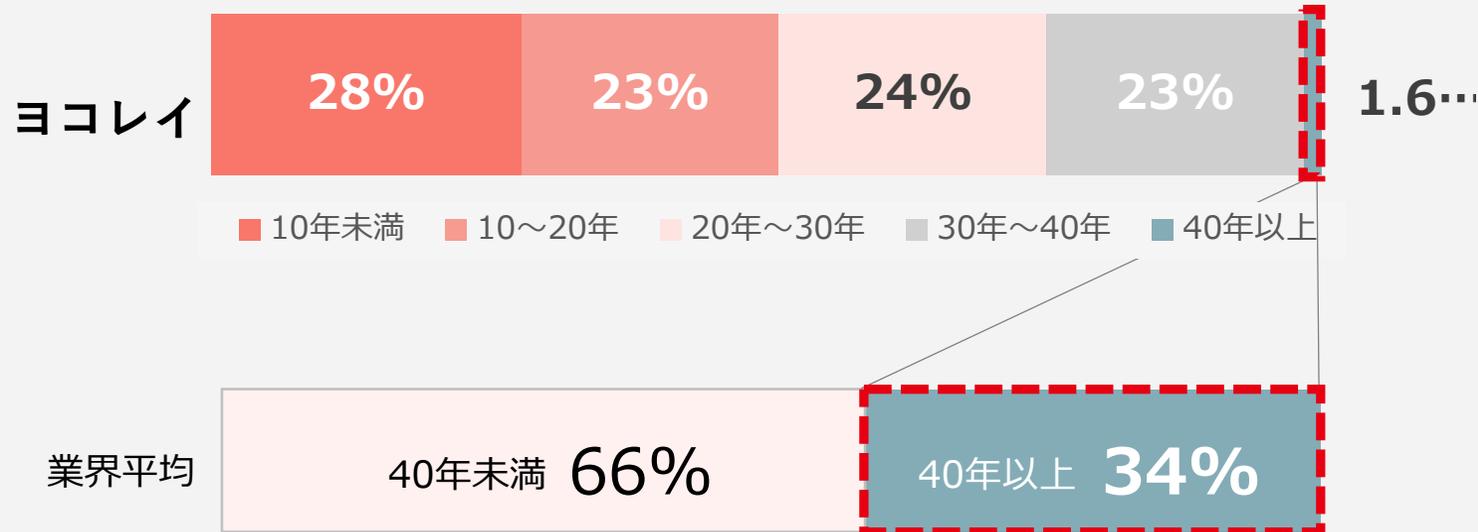
保管料、荷役料の
安定収入が**7~8割**

※2023年9月期決算数値より

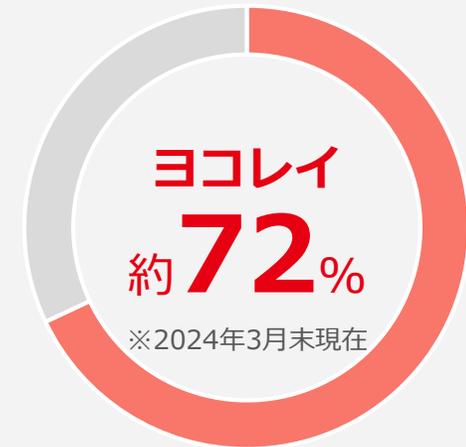
- ※1 保管料
貨物の種別、量、期間によって決まる
料金体系
- ※2 荷役料
貨物の入出庫作業にかかる手数料

設備の築年数分布 (*1)

築40年以上はわずか**1.6%**
 築20年以下の新しい冷蔵庫が**5割超**

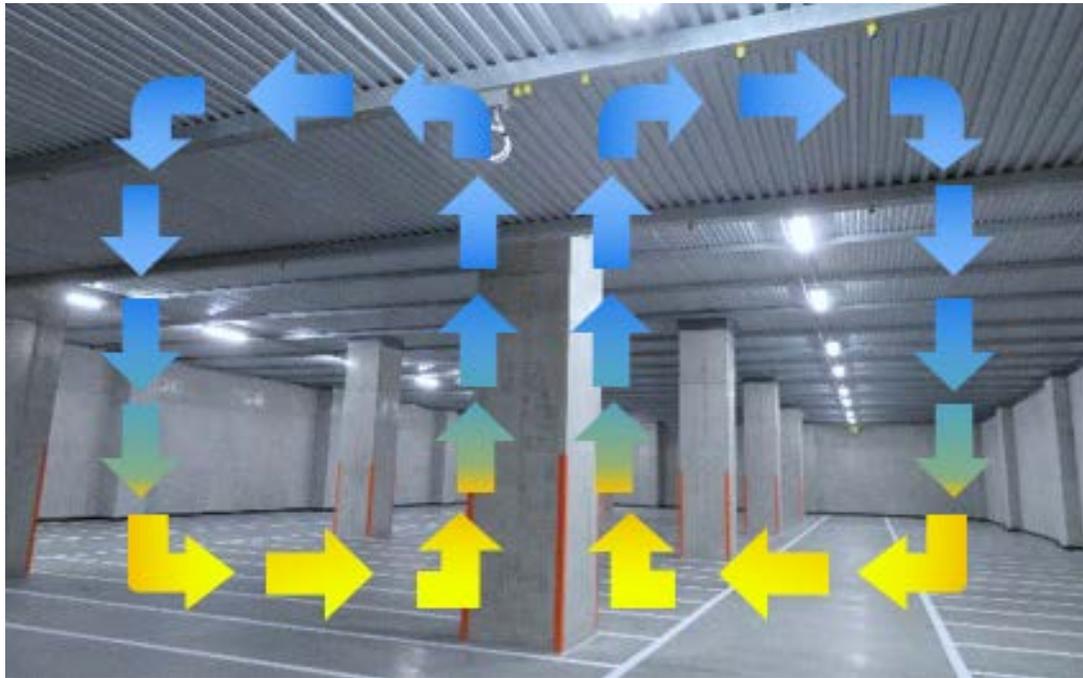


脱フロン化
 (自然冷媒導入率)



*1: ヨコレイは海外も含む、業界平均は国内のみ (2023年現在)

業界最新の自然対流の冷却方式



✓ 冷風による冷却むら・冷凍焼けが起こりにくい
「自然対流冷却方式」を大手で唯一採用

✓ 長期間、高品質な保管が可能

自社社員によるオペレーション



✓ 倉庫内のオペレーションを自社社員が実施

✓ 蓄積された商品知識とノウハウ

デバンパレタイズシステム (DPS)

- ✓ 荷下ろし後の貨物のパレットへの積み上げ、フィルム梱包までの一連の作業を完全に自動化
- ✓ 従来の半分以下の人員での作業が可能に



トラック予約受付システム

- ✓ トラックの長時間待機問題の解決に向けた取り組み
- ✓ ホワイト物流推進の自主行動宣言



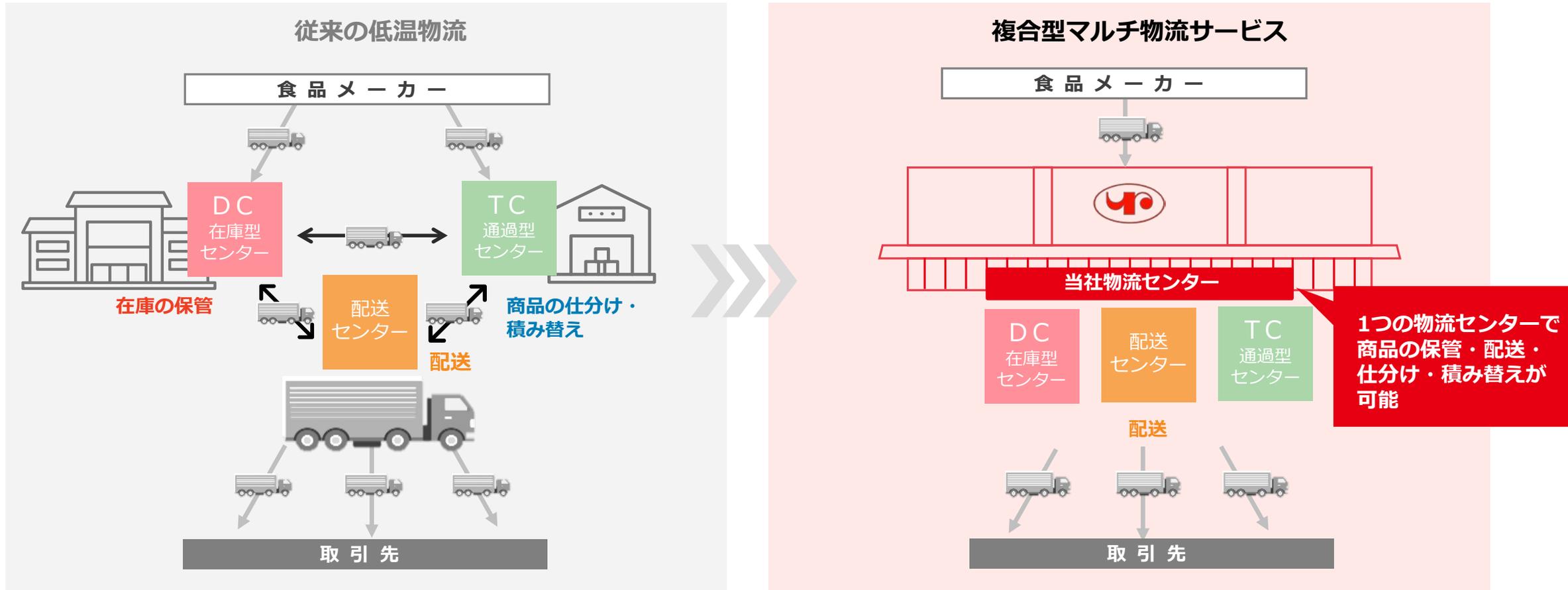
カーゴナビゲーションシステム

- ✓ 入出庫作業を大幅に効率化
- ✓ 誰でも「短時間に」「迷わず」「正確な作業が行える」
- ✓ オンライン上でお客様の在庫を管理



経営環境の変化を先取りした事業モデルを創造

冷凍食品の増加、ドライバー不足、環境問題への対応策となる「複合型マルチ物流サービス」施設の運営を開始



付加価値を高め、顧客から選ばれる冷蔵倉庫へ進化

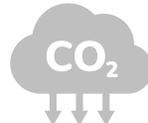
経済産業省および国土交通省が実施する「物流パートナーシップ優良事業者表彰」で『物流構造改革表彰』を受賞 (2022年12月22日 表彰式)

食品業界における『卸センターにおける納品事業者の待機時間削減』という社会課題解決に向けた、パレチゼーションによる冷凍物流の高効率化



トラック
手待ち時間

9,184時間/年削減



排出量

約**10%**削減



物流パートナーシップ
優良事業者表彰

**物流構造
改革表彰**

- ✓ 日本アクセス様と当社加須第二物流センターにて「フローズンマザーセンター」を設置し、関東エリア内の仕入機能を集約。
- ✓ 生産・販売計画を共有し、調達から納品に至る物流をパレット単位・車両単位での発注に置き換え、一貫パレチゼーション化を促すことで、積込・納品業務の効率化（トラック待機時間削減9,184時間/年）とそれに伴うCO₂の削減(35.7t- CO₂/年「10%削減」)を実現。

<https://www.yokorei.co.jp/news/detail.php?type=news&id=2AR2JDT>

2023年10月27日付

AEO制度に基づく「認定通関業者」としての認定を取得

A E O 通関業者制度とは

貨物のセキュリティ管理とコンプライアンス体制（法令順守）が整備された事業者に対して、税関手続の緩和や簡素化策を提供する制度



2024年4月1日

業務の更なる拡大と顧客ニーズに対応するため、中京・東海エリアに**名古屋通関部**を開設

通関事業部門

東京通関部	横浜通関部	大阪通関部
神戸通関部	九州通関部	NEW 名古屋通関部

今後の取組

1. 開設した名古屋通関部の本格稼働
2. 保管、運送、ドレージなどの付加価値業務の取扱強化
3. AEO認定の適正運営と制度活用
4. 業務効率化、次期NACCS対応等、デジタル化の推進

A E O 認定通関業者として、これからも国際物流の円滑化を図るとともに、食の安全・安心の確保に努め高品質なスマートコールドサービスを提供

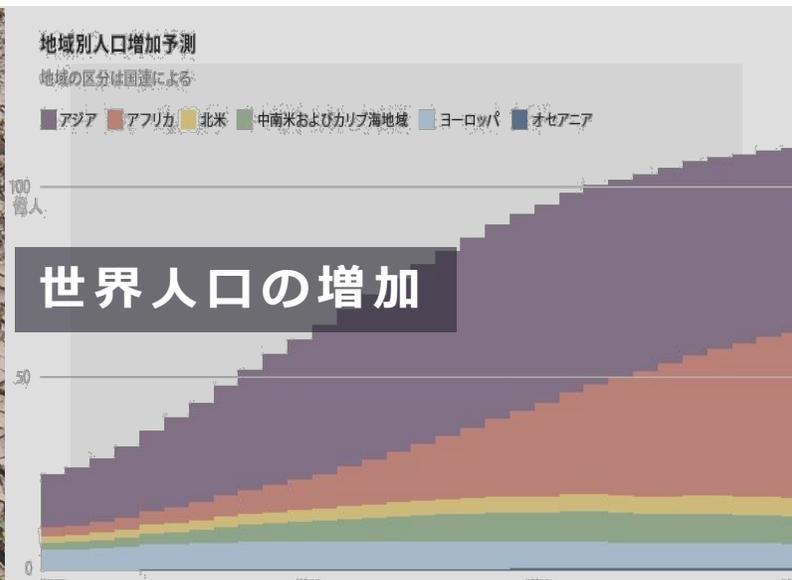
3

食品販売事業

FOOD SALES BUSINESS

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

食糧資源の確保に関する課題



事業機会

安定した食糧調達先の確保が今後の成長へのカギとなる

国内外で良品を見極める、ヨコレイの「調達力」



水産事業

- ✓ 東南アジア・南米のエビ、北欧のサーモンなどを、国内の加工メーカーや問屋に販売
- ✓ 国内のサバ、ホタテ、イワシなどの水産品を国内外に流通



畜産事業

- ✓ スペイン産のイベリコ豚やチリ産のポーク等、ポーク・チキン・ビーフなどの主要畜産品を北米・ブラジル・豪州などから調達

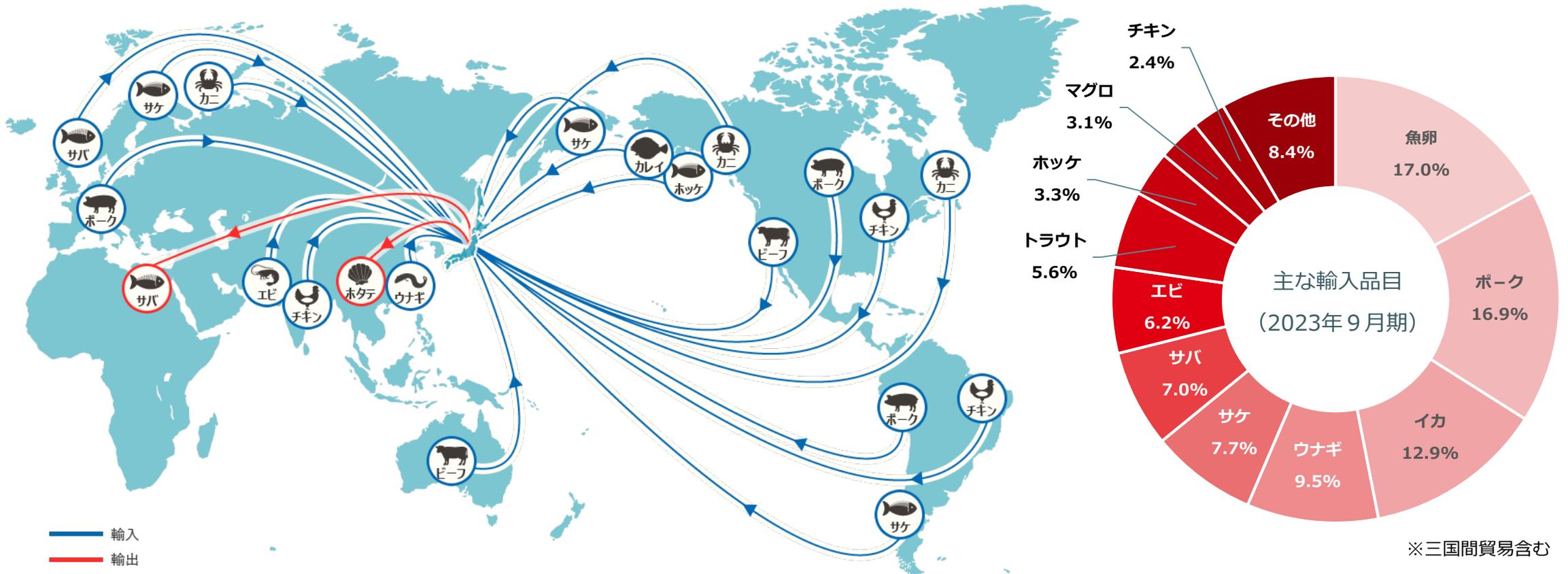


農産事業

- ✓ 北海道の豊かな大地が生んだ農産品を、全国各地のメーカーや卸売業者に販売

強み① 調達・供給の海外ネットワーク

輸入品は、主要調達先である北欧や東南アジアをはじめ、北米、南米、オーストラリアなど、世界各国より調達



ばいさんけん

国内の主要11か所で買参権を保有

市場での買い付けから、凍結、保管、国内外への販売まで一気通貫の仕組みを構築

※買参権▶市場でセリに参加することができる権利

プライム上場企業で唯一
買参権を保有



松浦
平戸
長崎
唐津
佐世保
枕崎

八戸
気仙沼
女川
石巻
塩釜



改革

収益性向上のための 構造改革

- ①DXによる営業支援、事業の改革とリスク軽減を図る
- ②販売推進事業部を設置し、国内外への販路拡大を行う
 - 国内
商品開発・製品販売の推進
養殖魚の取扱いを強化
 - 海外
ASEAN、北米、欧州への原料・日本食の販売推進

事業品^{*1}・全社取組商材^{*2}の 販路拡大

当社の強みである調達力を
活かした商材の販売拡大

ノルウェー
サーモン

ペルー
水産品

凍結
加工品

養鰻品

大西洋サバ

ホッケ

ホタテ

等

*1 事業品：投資先商材・自社生産品
*2 全社取組商材：一括仕入商材

成長

独自商品と販売網の開発

お客様のニーズに沿った
満足度の高い商品を
ヨコレイ独自の強みで提供

独自商品の開発

医療食販売の強化

販売網の開発

海外における販路拡大

既存商圏の販売強化
海外パートナーの販路を活用
した日本食の販売

既存商圏

- ・ASEAN
- ・中南米

新規商圏

- ・北米
- ・欧州

4

持続可能な社会へ

ーサステナビリティへの取り組みー

For the sustainable society - SDGs ACTIVITY -

経営理念

「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へーサステナビリティへの取り組みー
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

明るい食の未来へ

～ヨコレイは食の安定供給により、持続可能な社会に貢献します～

マテリアリティ

地球環境との共生

より高い品質・サービスの提供

地域社会とともに発展

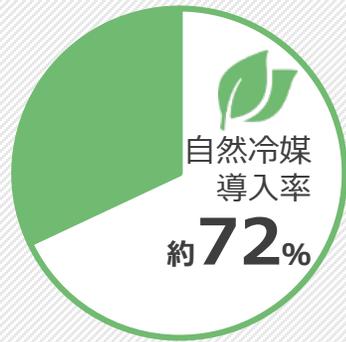
働きがいのある職場づくり

経営基盤の強化・健全性の確保

環境を破壊しない 自然冷媒による冷却システム

業界でもいち早く冷媒をフロンから、
環境にやさしい自然冷媒（NH3、CO2）
へ切り替え

業界トップクラス



太陽光発電システム によりCO2を削減

冷蔵倉庫で太陽光発電システムが稼働



物流センターの屋上に設置された太陽光発電
モジュール

※2024年8月現在

省エネな冷蔵倉庫

業界平均より電力使用が
8% 少ない

収容能力1000トンあたり
の電気の使用量

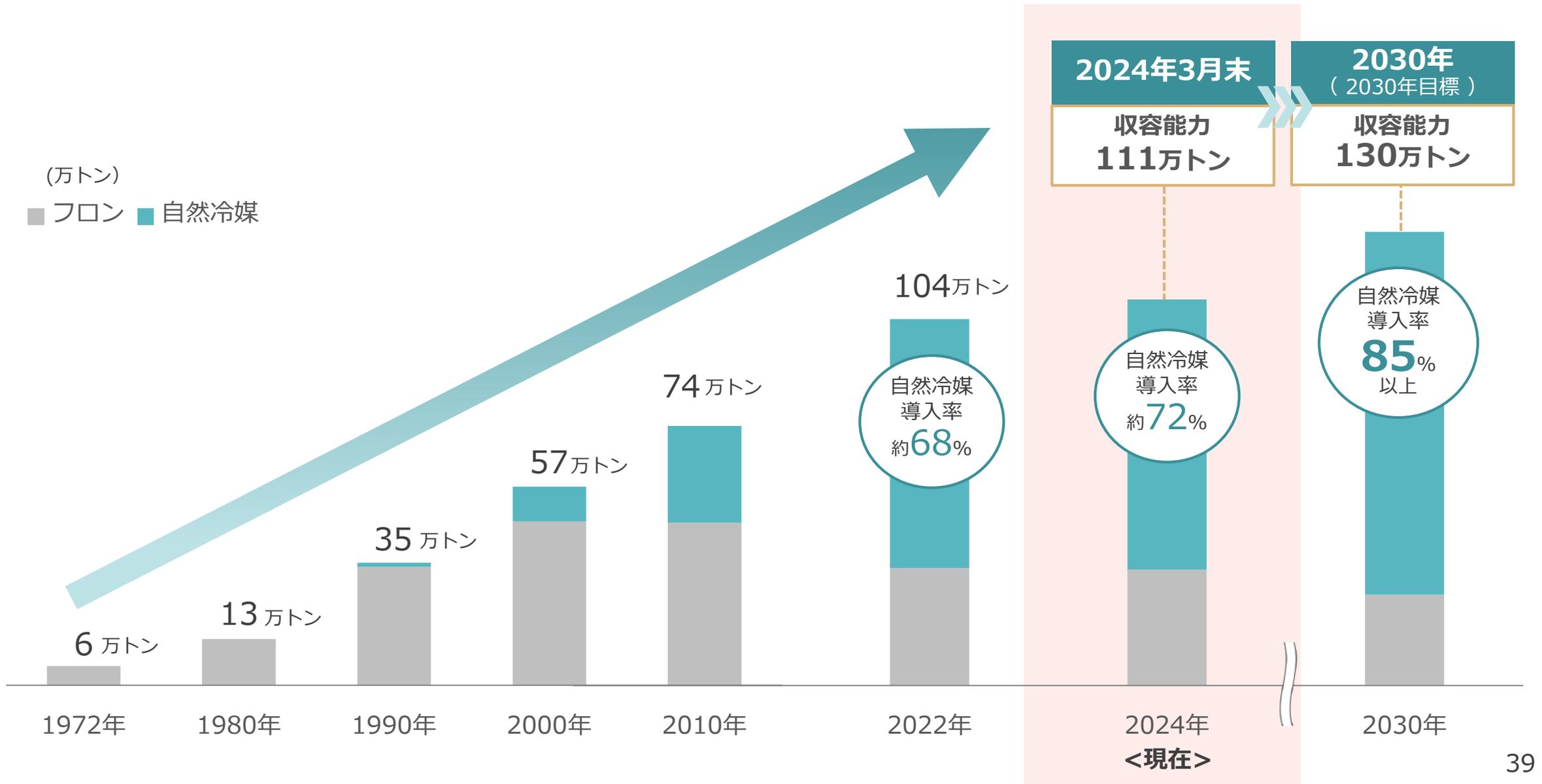
業界平均 : 162 MWh
当社 : **149** MWh

日本冷蔵倉庫協会
冷蔵倉庫実態調査 2022年版 より

✓ 自然環境・地球にやさしい物流を実現 ✓ 電気高騰の影響が業界平均よりも少ない

温室効果ガスのサプライチェーン排出量を意識する顧客に選ばれる冷凍倉庫へ

環境配慮NO.1 自然冷媒の割合と冷蔵収容能力



環境への 取り組み

気候変動をはじめとする環境問題への 取り組みを積極的に推進



TCFD | TASK FORCE ON
CLIMATE-RELATED
FINANCIAL
DISCLOSURES



「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」
の提言へ賛同を表明
「TCFDコンソーシアム」に加盟

環境への 取り組み

環境に配慮した冷蔵倉庫の建設



太陽光発電システム

- 国内25カ所、タイ2カ所の冷蔵倉庫に設置

※2024年8月現在



自然冷媒冷凍機の導入

- 自然冷媒(アンモニア・CO2)の導入推進



全事業所でグリーン経営認証を取得

省人化 & 自動化

省人化・自動化システムの導入



- 作業用ロボットを使用したデバンパレタイズシステム（DPS）を導入
 - 荷下ろし後の貨物のパレットへの積み上げ、フィルム梱包までの一連の作業を完全に自動化



- カーゴナビゲーションシステム
 - 入出庫作業を大幅に効率化



- トラック予約受付システム
 - トラックの長時間待機問題の解決に向けた取り組み



ダイバーシティ

ダイバーシティへの取り組み



- 女性・外国籍の活躍
- キャリア継続を支援
- 働きやすい職場づくりの推進



働き方改革

スマートオフィス



- 事務作業が遠隔でできるスマートオフィスを開設
- 通勤時間の短縮、および複数事業所の業務を一括集約処理することで少人数での効率的な事務処理が可能に



地域貢献

スポンサー活動による地域貢献



- 地域スポーツクラブの支援
- 日本将棋連盟「研修会」運営の支援
- えのすいecoサポーターとして
新江ノ島水族館の エコ活動に協賛

社会貢献活動

全国食支援活動協力会へ保管場所を提供



東京羽田物流センターで、全国食支援活動協力会のミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS) の中核ロジ拠点として保管場所の提供を開始



- MOWLSとは、全国のこども食堂等の「居場所」に集う子どもから高齢者等すべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム

中核ロジ拠点



県域もしくは複数県域分の寄贈食品の保管機能をもった倉庫

- MOWLSは支援者からの寄贈が効率的に運搬・仕分け・分配されることで支援者の負担を軽減し、活動者への支援が充実することを旨とする

社会貢献活動

寄付・協賛金による支援

『Sweet heart project』への寄付・支援

- ハンディキャップを抱える人々が福祉施設でお菓子作りを行う活動を支援する団体『Sweet heart project』への寄付・支援
このお菓子を当社のイベントやお客様へのお土産として活用することで同活動を応援



ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の指数である「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄選定
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄にも継続選定



**FTSE Blossom
Japan Index**



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

5

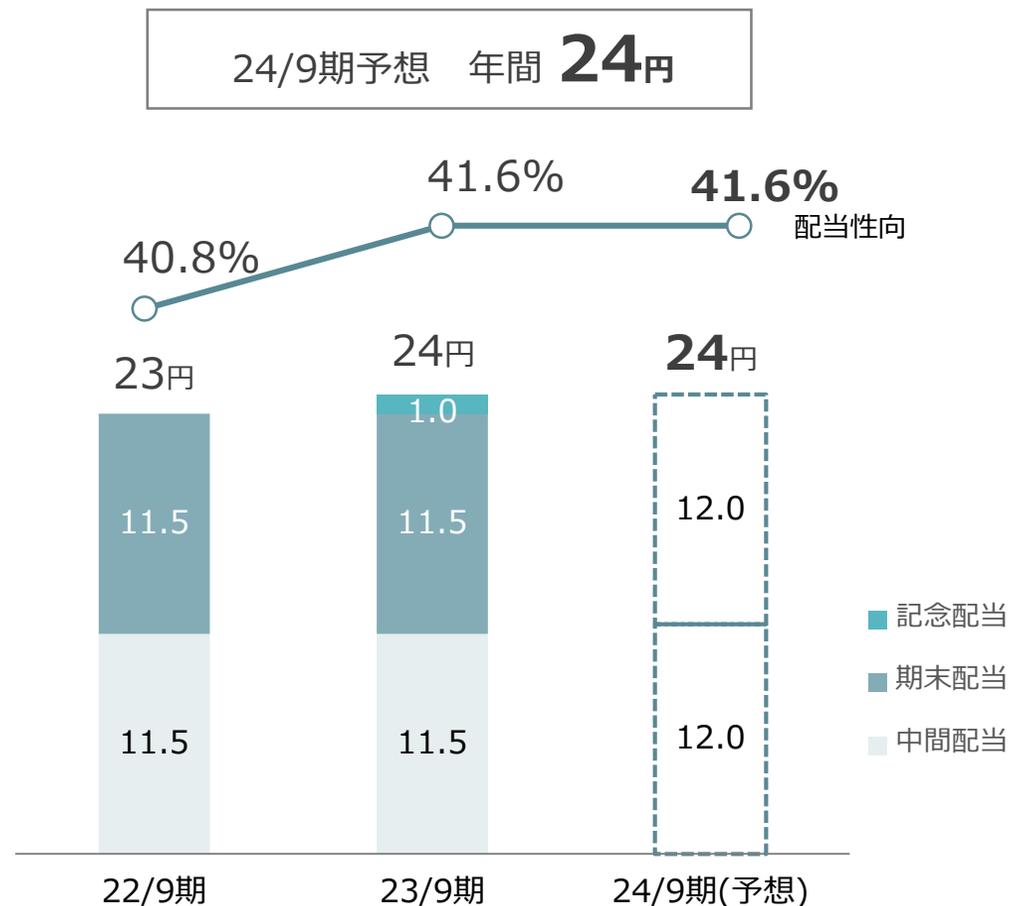
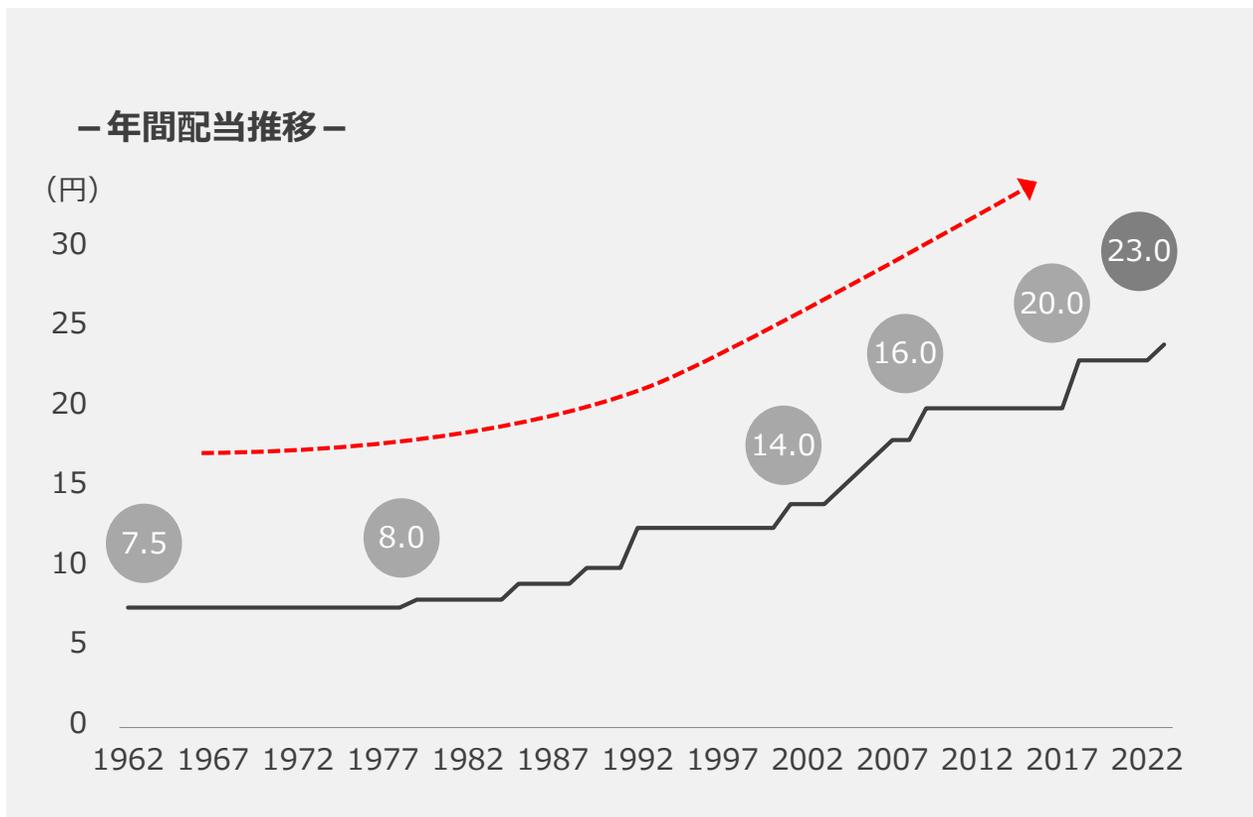
株主還元について

Shareholder return policy

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

着実な成長と累進配当

1962年の東証二部上場以来、半世紀以上増配を継続



－株主優待－（2023年9月期実績）

1,000株以上～3,000株未満
1年以上継続保有の株主様

【ノルウェー産 サーモントラウト製品詰合せ】

- －サーモントラウト切身（骨抜き）
食べ比べ
無塩・定塩・粕漬け・西京味噌漬け
（3切240g×各1パック）
- －スモークサーモン（50g×3パック）



3,000株以上
1年以上継続保有の株主様

【北海道産ホタテ・イクラセット】

- －特選イクラ醤油漬け（鮭卵500g）
- －生食用ホタテ貝柱
（Lもしくは2Lサイズ1,000g）



100株以上
保有の株主様

【株主様向け ECサイトでの購入権】

- －左記優待品2種等を株主様向け
ECサイトにてご購入可能



株主優待の詳細については
こちらから

6

本日のまとめ

SUMMARY

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料

食品流通のエキスパート

お客様の大切な貨物を守り、世界中の食材を安定供給し、
日本の食の安全・安心を今後もつないでいきます



累進配当と充実の株主優待で株主様へ還元



安定した冷蔵倉庫事業と調達力に優れた食品販売事業で持続的に成長



7

資料

SOURCE BOOK

1. ヨコレイの概要
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
5. 株主還元について
6. 本日のまとめ
7. 資料



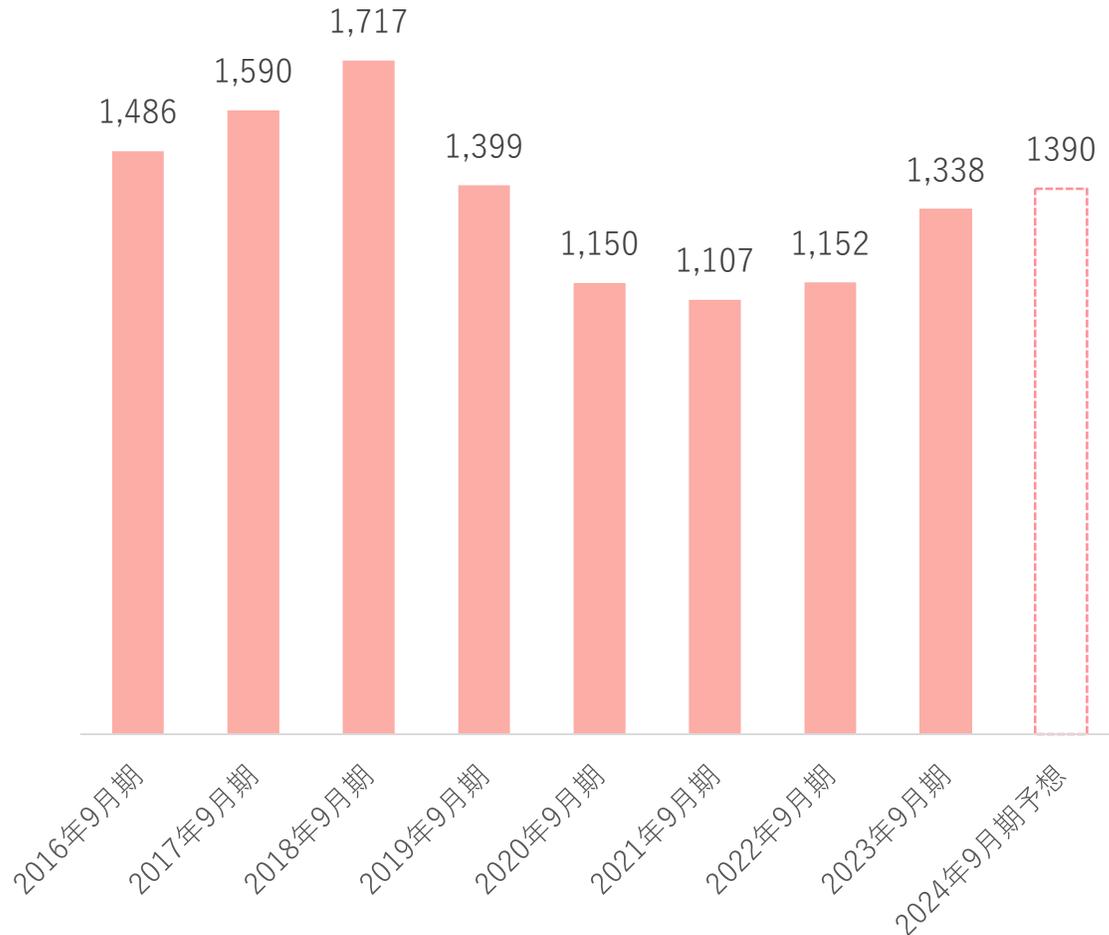
ヨコレイ本社 (横浜コネクトスクエア10F)

会社名	横浜冷凍株式会社		
本社所在地	横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号 横浜コネクトスクエア10F		
設立	1948年5月13日		
代表者	取締役会長	吉川俊雄	
	代表取締役社長	古瀬健児	
資本金	14,303百万円		
事業拠点	冷蔵倉庫事業	国内52	海外5
	通関事業	国内5	
	食品販売事業	国内24	海外1
従業員数	連結	1,645名	単体 1,312名
上場証券取引所	東証プライム (証券コード 2874)		

※2024年3月31日現在

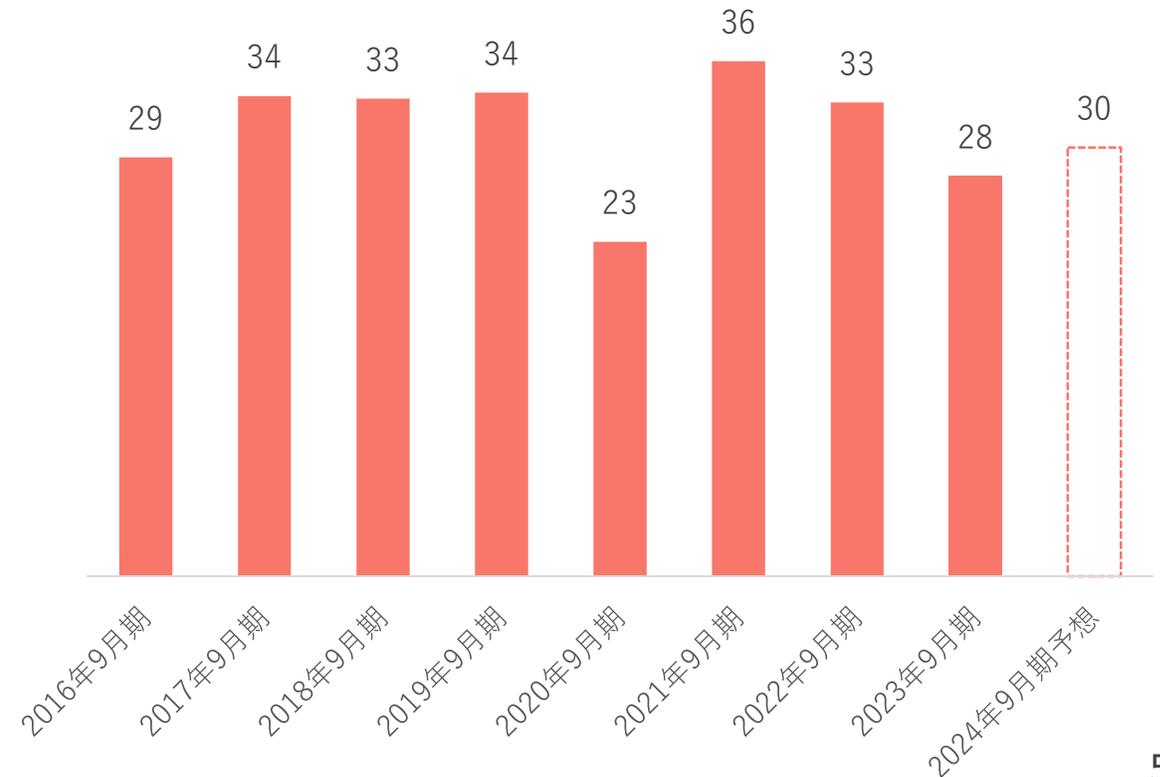
売上高推移

(単位：億円)



当期純利益推移

(単位：億円)



2024年4月末現在

国内：53拠点
海外：5拠点



●北海道ブロック

- 十勝物流センター
- 十勝第二物流センター
- 十勝第三物流センター
- 石狩物流センター
- 石狩第二物流センター
- 恵庭スマート物流センター
- 喜茂別物流センター

●東北ブロック

- 八戸物流センター
- 気仙沼ソーティングスポット I
- 気仙沼ソーティングスポット II
- 仙台物流センター

●圏央ブロック

- 加須物流センター
- 加須第二物流センター
- 幸手物流センター
- 鶴ヶ島物流センター
- 伊勢原物流センター
- つくば物流センター
- ちばリサーチパーク物流センター

●京浜ブロック

- 東京羽田物流センター
- 東京物流センター
- 東京第二物流センター
- 大黒物流センター
- 横浜物流センター
- 横浜みらいサテライト
- 山内物流センター

●中京・東海ブロック

- 沼津物流センター
- 大井川物流センター
- 名港物流センター
- 小牧物流センター
- 名古屋物流センター
- 中川物流センター

●阪神ブロック

- 夢洲物流センター
- 夢洲第二物流センター
- 北港物流センター
- 舞洲物流センター
- 西淀物流センター
- 六甲物流センター

●北九州ブロック

- 福岡ISLAND CITY 物流センター
- 福岡物流センター
- 鳥栖物流センター
- 鳥栖第二物流センター
- 唐津ソーティングスポット
- 長崎物流センター
- 長崎ソーティングスポット
- 佐世保ソーティングスポット
- 箱崎FACILITY物流センター

●南九州ブロック

- 都城物流センター
- 都城第二物流センター
- 志布志物流センター
- 鹿児島物流センター
- 川辺物流センター
- 枕崎ソーティングスポット
- 山川物流センター

●THAI YOKOREI CO.,LTD.

- ワンノイ物流センター
- ワンノイ物流センター2号棟
- パンパコン物流センター
- パンパコン第2物流センター
- サムロン物流センター

2026年計画

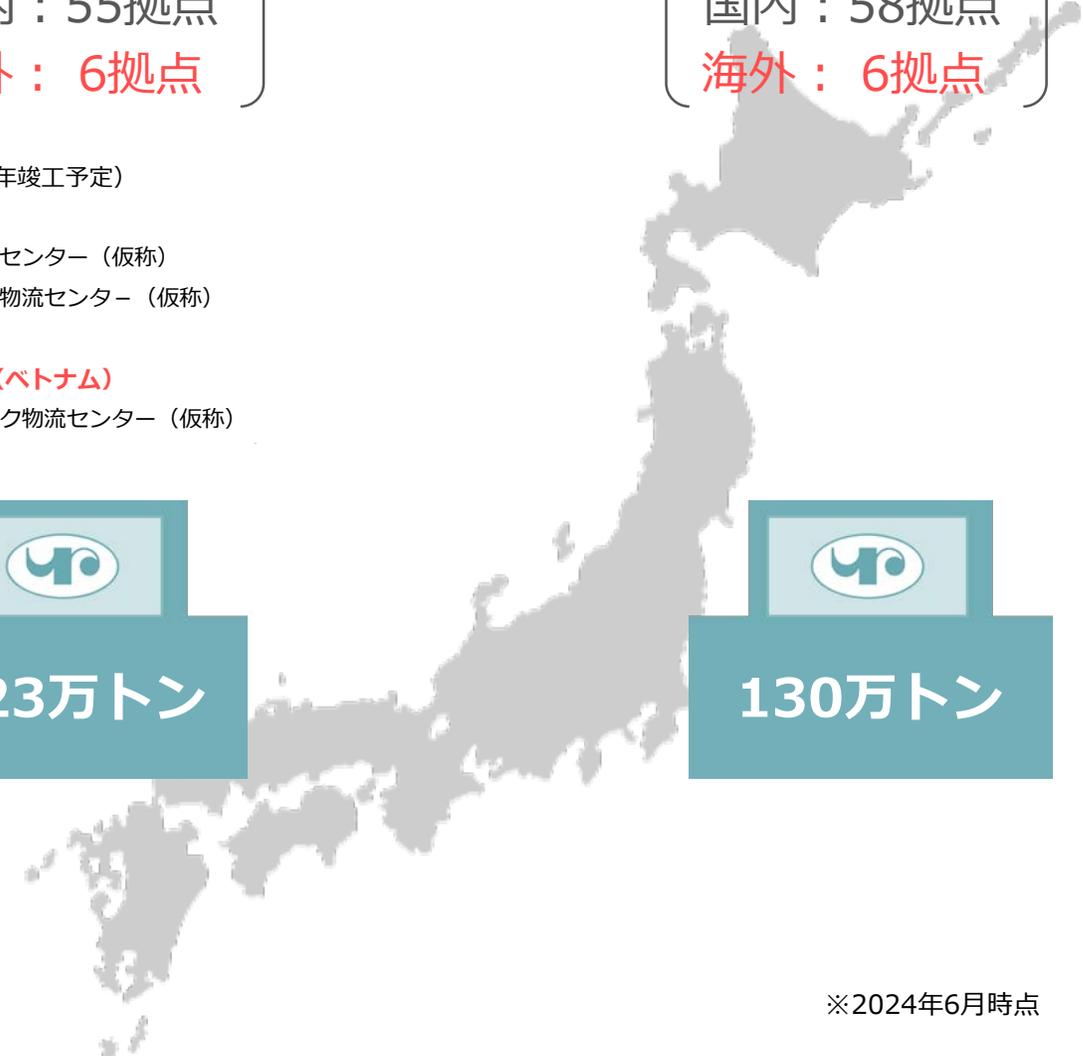
国内：55拠点
海外：6拠点

- (2025年竣工予定)
- 国内
 - 岡山物流センター (仮称)
 - 十勝第四物流センター (仮称)
 - 海外 (ベトナム)
 - ベンルック物流センター (仮称)



2030年計画

国内：58拠点
海外：6拠点



※2024年6月時点

食品販売事業：営業拠点

広域販売グループ	畜産営業部	畜産営業部
		畜産名古屋営業部
	海外事業部	海外営業 1 部
		海外営業 2 部
		海外営業 3 部
	広域販売事業部	十勝営業所
		札幌営業所
		東京営業所
		沼津営業所
		名古屋営業所
大阪営業所		
国内産地グループ	東日本事業部	八戸営業所
		気仙沼営業所
		仙台営業所
		茨城営業所
		銚子営業所
	西日本事業部	福岡営業所
		唐津営業所
		佐世保営業所
		長崎営業所
		枕崎営業所
販売推進事業部	ウナギ販売推進室	
	EC推進室	

※2024年4月1日現在

● 広域販売グループ（消費地型）

海外ネットワークを活用し、食品メーカー、仲卸業者等へ加工食材や製品原料を供給
ex) 東南アジアのエビ
北欧のサーモントラウト、サバ、アジ
北南米のポーク、チキン 他

● 国内産地グループ（産地型）

生産から販売まで一貫して関わる体制を確立
原料サプライヤーとして、水産・畜産・農産品を見極め、環境変化に強い供給体制を構築

全国の主要漁港で「買参権」を保有

買参権：魚市場でセリに参加することができる権利



サステナビリティビジョン 2030の進捗状況

定量目標

マテリアリティ		2023年 9月期		2026年 9月期		2030年	
		達成状況		2026年中期経営計画目標		2030年目標	
①地球環境との共生	温室効果ガス排出量 (2015年比)	33.0% 収容能力あたり排出量 85kg → 57kg		37%削減		40%削減	
	自然冷媒導入率	69.0%		80%以上		85%以上	
	太陽光発電量 (2020年比)	5,028MWh → 8,005MWh (2020年) (2023年) +59.2%		発電能力 13メガワット		発電能力 20メガワット	
	太陽光発電能力	5.1メガワット → 9.3メガワット (2020年) (2023年)					
②働きがいのある 職場づくり	働きがいを実感している 従業員の割合(%)	65.1% 働きがいを感じていた21.1% やや感じていた44.0% (2023年7月 働きがいアンケート実施結果)		—		80%以上	
	総合職女性比率	7.1% 総合職882名中 男性819名 女性 63名 (2023年10月現在)		—		女性管理職人数 2倍以上 (2020年度比)	

証券コード	2874
上場金融商品取引所	東京証券取引所プライム市場
発行済株式総数	59,266,684株
時価総額	71,771百万円
1単元の株式数	100株
株主数	13,823名
格付情報	日本格付研究所 長期 A -
事業年度	10月1日より9月30日まで
定時株主総会	12月
株主総会議決権基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
期末配当(優待品)基準日	9月30日

大株主名	持株数 (千株)	持株 比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,293	10.66
株式会社松岡	2,569	4.35
第一生命保険株式会社	2,205	3.73
株式会社横浜銀行	2,176	3.68
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,629	2.76
農林中央金庫	1,473	2.49
株式会社八丁幸	1,411	2.39
横浜冷凍従業員持株会	1,329	2.25

※持株比率は自己株式(232,002株)を控除して計算しております
 ※2023年9月30日現在



— 「人」「もの」「地球」に優しい食品流通のエキスパート —

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものをご理解ください。

当社の事前の承諾なしに、本資料に掲載されている内容の複製、転載等を行うことを禁止します。



◀ 横浜冷凍(株)ホームページは
こちらをスキャン

お問い合わせ先

横浜冷凍株式会社 広報 I R 部

TEL: 045-210-0011

E-mail: info@yokorei.co.jp

URL : <https://www.yokorei.co.jp/>